

ここに注目！ 地域資源の「鉄道」を活かしたまちづくりと、にぎわいの創出



ポイント

明治時代からの歴史的な背景を活かし、「鉄道の街」としてのイメージを確立するためユニークなハード・ソフト事業を実施し、多くの来街者を集めている。

【現状分析及び課題抽出】

Plan

来街者の減少と大型店の進出

商店街は、JRの3路線が乗り入れる新津駅の東側に広がる。公共施設、金融、医療機関も集積する新潟市秋葉区の中心地である。利用者の多くは徒歩や自転車で来街し、高齢者が多い。

課題として、商店街周辺にある大型店舗との競合や、駅利用者や周辺住民の減少、空き店舗の増加、後継者の不足などがある。

逆に商店街利用者から評価されている点として、住居に近いこと、馴染みの店があること、接客がよいことなどが挙げられている。

以上から、大型店舗に対する優位点が地域密着、長い歴史、信頼感にあると考えられた。

そこで、日本屈指の鉄道の街であった歴史を振り返り、これを中心とした取組を行うこととした。

【対応策の優位性】

Do

「鉄道の街にいつ」を見つめなおして

かつて日本屈指の鉄道の街として知られていたことを活かした独自のまちづくりに努め、地域住民、鉄道ファンを惹きつけることで、郊外型大型店との差別化に成功している。

ソフト事業として、店先に鉄道資料を展示する「にいつ鉄道商店街」の開催、乗車可能なミニSLの所有・活用、オリジナルキャラクターグッズ開発のほか、個性的なイラストで街を紹介する冊子の発行も行っている。

ハード面では、SL動輪や踏切警報器の設置、国鉄の特急をイメージしたアーケード塗装、店舗シャッター

基本データ

新津商店街協同組合連合会

所在地:新潟県新潟市秋葉区新津本町

人口:約8万人(新潟市秋葉区)

会員数:106名

店舗数:106店舗(買回品小売店28、最寄品小売店31、飲食店13、サービス店17、その他17)

商店街の類型:地域型商店街

主な客層:高齢者、会社員、主婦

商店街概要

昭和28年に法人化して設立し、新潟市秋葉区内の5商店街で構成する連合会である。主にJR新津駅周辺に広がる商店街であり、鉄道の発展と共に繁栄した。近年は大型店の出店により消費者が郊外に流れ、商店街は空き店舗も多くなっているが、生活必需品を扱う店舗の他、金融機関、医療機関も集中しており、近隣住民には欠かせない地域型商店街である。



店舗シャッターへの鉄道車両描画イベント

への鉄道車両描画などを行っている。

【効果の評価及び改善策】

Check-Action

知名度の向上からおもてなしの実践へ

近隣の新潟市鉄道資料館とも連携したイベントである「にいつ鉄道商店街」では、普段は商店街に馴染みのない子育て世代も多く訪れ、商店街に親しみを感じていただくことに成功した。

そのユニークさがマスコミにも取り上げられ、鉄道ファンが県外からも訪れ、週末にはまち歩きを楽しむ

方がいるほどに知名度が向上した。

これからも、イベントやハード整備により「鉄道の街にいつ」というブランドの確立に取り組み、来街者の増加に努めていく。さらに今後は売上げの向上にもつなげるため、先進地の事例を参考に個々の店舗の魅力の紹介、おもてなしの実践に努めていく必要がある。

[実施体制]

「鉄道」を中心に立場を超えて地域が連携

「にいつ鉄道商店街」などの事業は「にいつ鉄道商店街実行委員会」が企画運営している。この委員会は当連合会や商店主だけではなく、新潟市、新津観光協会などとも連携して構成されている。さらには有志の若者や鉄道ファンも参画している。この取組は、新潟市や新津商工会議所の進める鉄道を活かしたまちづくりにおいても大きな役割を担っている。

また、当連合会が所有する「ミニSL」をイベントで活用し、地域活性化と財源の確保に努めている。

さらに、商店街の女性経営者や、後継者である若者

の参画もあり、SNS などを利用した商店街の魅力発信が行われている。



所有する「ミニSL」による地域活性化と財源の確保



商店街を巡る「鉄道スゴロク」

オリジナルキャラクター「きてきち」を活かした土産品の開発



キーパーソン

新津商店街協同組合連合会
理事長 遠藤 龍可

「鉄道」とともにあった歴史を振り返って

新津はかつて「西の米原、東の新津」と呼ばれるほどの鉄道の要衝でした。昔はお盆になると駅が帰省客でごった返していたものです。しかしやがて駅の利用客は減り、商店街も寂れました。

そこで我々は「はたして鉄道の街を盛り上げる努力をしていただろうか」と自らに問いかけてきました。商店街が鉄道とともに発展してきた歴史を忘れかけていたのです。その反省を糧として活動を開始しました。

さいわい「鉄道」は大人も子供も親しめる、切り口の多い題材です。商工会議所が鉄道をテーマに駄菓子屋やグルメメニューを企画し、元国鉄職員がミニSLを運転し、ファンが模型を持ち寄り、子どもたちがシャッターに列車を描きました。

いろいろな人の力を借りヒントをもらいながら、商店街だけではできなかったことが実現しつつあります。ひとつひとつは小さなことでも、とにかくやってみることが大事なのかもしれません。

もっと「鉄道の街」らしい商店街へ

この数年の間に、店先で鉄道資料を展示する「にいつ鉄道商店街」を開催し、踏切警報器やSL動輪が歩道に設置され、アーケードが国鉄色になるなど、鉄道一色の取組が急速に進みました。しかし、もっともっと「鉄道の街」らしさの感じられる商店街にしたいですね。

お店で買い物や食事をして、店主と会話する。そんな場面で「鉄道」をほのかに感じていただけると良いのですが。

駅をふらっと降りて、まちなかを巡りながら、人々がどんな風に生きているのかを知る。つまり私たちの生き様を見てほしい。新津はそんな旅の立ち寄り先にふさわしい粋な街になって欲しいと思います。

来年には大学のキャンパスが商店街の近くにやってきます。ぜひ学生とも一緒に汗を流しながら、これからも地域と一体となって、仰ぎ見る頂きに向かってまちづくりを続けていきたいと思っています。